

雨の日、虫たちはどうしてる?

時折、強い雨の降る外では、昆虫たちはどのように過ごしているのでしょうか。昆虫にとっては、雨粒もでかい水玉になるでしょうし、花びらを散らす風にも吹き飛ばされそうになることでしょう。でも、天気が回復すると姿を見せることから、ちゃんと生きていることがわかりますよね。

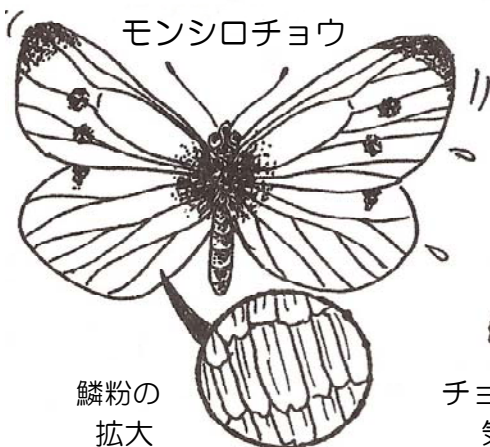
雨の日、チョウ達は葉の裏に羽をたたんで、ぶら下がるように止まっています。羽をそっと指で触ってもぬれていません。そのかわり指には、羽の粉（鱗粉・りんぷん）がつきます。チョウの体や羽は、鱗粉が屋根瓦のように重なり合っていて覆っています。また、鱗粉がはげ落ちて皮ふは防水がきいているので、ずぶぬれにはなりません。

幼虫のアオムシはどうでしょう。体の表面には、小さな毛がたくさん生えてい



オオゴマダラ

て、水をはじくしくみになっています。でも、卵からかえったばかりの小さな幼虫は、おぼれたり、雨に打たれて死ぬものもいます。虫は口ではなく、体の横にある気門（きもん）で呼吸をしているので、体が水につかると窒息してしまうのです。



モンシロチョウ

鱗粉の
拡大



毛で水をはじく

チョウの幼虫
気門（空気が入り
出て呼吸する）



（文責・スケッチ：玉村かおり）